

## 令和7年度木更津市郷土博物館金のすず協議会 第2回定例会 議事録

- 1 開催日時 令和7年11月30日（日）午後1時30分～2時55分
- 2 開催場所 木更津市郷土博物館金のすず
- 3 出席委員 高崎芳美・立野 晃・山田俊輔・伊東昭雄・中西綾子・根岸武久  
(敬称略・順不同)
- 4 出席職員 松本明子館長・寺原 進係長・依田あゆ美主査
- 5 傍聴人 0人
- 6 議事  
議案1 令和7年度上半期事業報告について  
議案2 令和7年度特別展「YAYOIの木更津」について

事務局(松本): ただいまより令和7年度木更津市郷土博物館金のすず協議会第2回定例会を開催いたします。本日は委員6人のご出席をいただきしております、「木更津市郷土博物館金のすず協議会運営規則第8条第1項」により会議は成立しております。また、「木更津市審議会等の会議公開に関する条例第3条」に基づき、本会議は一般公開となっておりますが傍聴人は0人です。

それでは会議開催にあたり、曾田智生教育部長よりご挨拶を申し上げます。

曾田部長： 挨拶

事務局(松本): それでは、これよりお手元の会議次第により協議会を進行いたします。「木更津市郷土博物館金のすず協議会運営規則 第8条2項」により「会議の議長は、委員長が行う。」とありますので、立野委員長には議長として、この後の議事進行をお願いいたします。

立野議長： 年度も3分の2ほど過ぎました。資料を拝見いたしましたが、順調にかつ成果も上っているように思います。現状のご報告を受けて皆様からご意見を伺えたらと思います。

それでは、議長として議事を進めさせていただきます。

議案1 の「令和7年度上半期事業報告」について事務局より説明を求めます。

事務局(松本): それでは、私からは概要についてご説明いたします。

展示活動ですが、令和6年度に常設展の観覧料が完全無料化になってから、はじめての企画展を春と夏に実施いたしました。入場無料により家族連れなど多くの入館が見られます。まず、企画展「浮世絵にみる上総・安房」は、3月22日から5月6日まで開催し、本館収蔵の上総・安房地域を題材にした浮世絵をご覧いただきましたが、江戸時代の江戸一木更津間の人・物の往来がわかる内容であったと思います。NHK 大河ドラマにちなみ江戸時代浮世絵の展示、また桜の開花時期ということもあり、多くの入場がありました。観覧者数3,791人、1日平均観覧者数は94.8人でした。

次に、企画展「木更津高等女学生が描いた戦争と平和」は、7月19日から8月31日まで開催し、戦後80年という節目であったことから、関心の高さを感じた企画展でした。特に本館収蔵の女学生の目線で描かれた昭和20年の様子がわかる絵と文は、現代の若い人にも共感できるもので、これから平和教育の良質な展示品として今後も大切に維持保管してまいります。観覧者数1,600人、一日平均42.1人でした。

次に、特別展「YAYOIの木更津」は、10月25日から開催を始めました。博物館でははじめて弥生時代をテーマに展示しており、県内の小銅鐸を一堂に集めた展示など、当時の人々の交流圏や他の地域とのつながりを持ち始める時代を感じさせるものとなります。関連した行事も企画しており、12月7日まで開催をします。

また、今後の企画展ですが、木更津市出身の俳優故中尾彬氏の寄贈品をこの夏に収蔵しましたので、3月から5月にかけて、企画展「仮称 中尾彬収蔵記念展」の開催を予定しております。

続いて昨年度から旧安西家住宅を会場にした新規事業を開催しておりますので、いくつかご報告いたします。

写真パネル展「懐かしの学び舎」は6月14日から7月6日まで開催し、近隣の学校の様子がわかる写真を展示しました。観覧者数419人、1日平均21.5人でした。

パネル展示『「考古学事始め1」縄文時代と弥生時代はどう違う?』を特別展のサテライト的な展示として、現在開催中です。

新規事業カメラスタンドは、自撮りしてもらいSNS発信をしてもらおうという企画でしたが、8月14日から8月16日3日間で78人、1日平均26人の利用がありました。

総じて、旧安西家住宅で開催する事業は、観覧者数が暑さ寒さ、雨風など天候に左右されやすいことが特徴として挙げられますが、徐々に旧安西家住宅に行くと何か催し物をしている様子が定着しつつあります。

次に、施設の環境整備についてご報告いたします。防犯カメラの更新については、10月中に工事が完了いたしました。続いて畳、襖の修繕を実施します。旧安西家住宅の屋根の茅葺の葺き替えは、来年度文化課が屋根の保護を進めますが、連携いたします。

環境整備、資料保管・管理について、寺原係長から説明いたします。

事務局(寺原): 環境整備については、8月に新収蔵庫の燻蒸を実施いたしました。

資料保管・管理については、木更津市指定文化財「木更津船之由緒書」を含む重田家文書、文化課から所管換えの美術品「中尾彬コレクション」等、6件の寄贈等がありました。燻蒸が必要な寄贈資料については、新収蔵庫の燻蒸時に併せて燻蒸しています。

事務局(松本): 次に利用状況をご報告いたします。4月から10月までの常設展観覧者数は、7,114人で昨年度比352人の増です。旧安西家住宅の観覧者数は、3,331人で昨年度比155人の増です。Xフォロワー数は11月28日現在439人で4月から94人の増です。グッズ販売としてピンバッジを6月6日から販売開始しましたが、10月末日までの販売数は300個製作し、239個、79.8%を売上げました。

では、続きまして、担当学芸員による報告をいたします。

事務局(依田)： 主な事業を紹介いたします。 まず、春の企画展「浮世絵にみる上総・安房」につきましては、上総・安房地方に関する作品を15点展示しました。

主な作品として、初代広重の「富士三十六景 上総黒戸の浦」・「不二三十六景上総木更津海上」、葛飾北斎の「富獄三十六景上総の海路」、小林清親の「日本名勝図會房州鏡ヶ浦」、また、大阪・関西万博の開催がありましたので、万博に関係ある大日本物産図会「千葉安房サンマ網之図」「千葉安房水仙花之図」を紹介しました。

ワークショップとして、「色とりどり～自分だけの色、みつけた！」を開催しました。浮世絵の多色刷りの表現を、ゴム印を重ねて押すことで体験してみようという企画です。参加者の皆様が思い思いの作品を作られました。自分の好きな色、影の表現、重ねる位置をずらさぬようぴったり重ねる(見当の大切さ)など、気づきがあったようです。作った作品は、期間中展示室に掲示し、来館者の皆様にご覧いただきました。

続きまして、夏の企画展「木更津高等女学生が描いた戦争と平和」についてご紹介いたします。

戦後80年を迎えるこの展示では、木更津高等女学校生徒が敗戦直後の冬休みの宿題として描いた「回顧昭和廿年」をとおして、当時の木更津について知る契機とし、今一度「戦争」や「平和」について知り、次世代へ受け継ぐことを目的としました。主な展示作品は、木更津高等女学校が昭和20年の出来事を絵と文で描いた「回顧昭和廿年」と8月19日終戦の事務折衝のため木更津基地から沖縄県伊江島へ向かった一式陸上攻撃機と輸送機の2機、いわゆる緑十字機の模型及び新しく寄附いただきました写真データを展示しました。

来館者アンケートによると、

・「木更津高女の展示を見にきました。母が木高女卒で今年亡くなり、もう、話が聞けないことを実感しました。語る人が少なくなっていくことに大変平和の危うさを感じます。」

・母の描いた絵を見たくてきました。どの絵も文章も見ごたえがありました。

などの感想を寄せていただきました。

次に、地域学講座「木更津風土記」を2回開催しました。地域学講座『木更津風土記』第1回「アサガオの色と形の変化を調べてみよう！」では、公益財団法人かずさDNA研究所植物ゲノム生物学研究室室長 白澤健太氏と、東京大学大学院農学生命科学研究科教授 藤井壯太氏をお招きし、7月27日に開催し、42人の参加がありました。かずさDNA研究所との連携事業の実施につきましては、昨年度の木更津風土記第3回「講演会「太田山公園の桜の開花予想～みんなで遺伝子を調べて桜の開花を予想しよう！」に続き、2回目の開催となりました。前半は、道具(マイクロピペット)の使い方や朝顔の色水実験(酸性・アルカリ性で色が変化)について、参加者全員でお話を聞き、後半は一般参加者には花粉管が伸びる様子を演示実験、一方子どもたちは顕微鏡で花粉を観察し、DNAキーホルダー作りを楽しみました。

第2回風土記は、「緑十字の飛行と木更津」—調べて紐解く80年前の出来事—とし、市民カレッジと共に8月9日、中央公民館を会場に開催し、約90人の参加があり、

パシフィック・レックス リサーチャー 坂井田 洋治 氏からご講演をいいただきました。アメリカの公文書やアメリカが撮影したカラー写真、国立公文書館が所蔵する史資料を読み解くことによって、当時の様子がより詳細に理解することが可能であり、楽しみでもあるとのお話をしました。

参加者から、「木更津からいわゆる緑十字機が飛び立ったことは知らなかった。いい機会になった」との声が寄せられました。

また、市民カレッジとの共催は、新たな参加者層と多くの集客がありました。

以上、担当いたしました主な事業につきましては以上でございます。

事務局(寺原)： 次に、特別展については、「YAYOIの木更津」と題し、主に市内の弥生時代の遺跡を紹介しています。観覧料は一般300円です。観覧者数は11月16日時点で540人となっております。

特別展では関連イベント五つを開催しています。

一つ目は、旧安西家住宅でのパネル展示です。会期中に『「考古学事始め1」縄文時代と弥生時代はどう違う?』と題し、縄文時代と弥生時代を比較して紹介しています。観覧無料です。観覧者数は11月16日時点で312人となっております。

二つ目は、展示担当職員によるギャラリートークです。1回目には15人の参加がありました。会期最終日に2回目を予定しております。

三つ目は、駒澤大学文学部の寺前直人教授を講師にお招きし、「房総半島からみたもう一つの弥生時代像－農業・青銅器・戦い－」と題して11月29日にご講演いただきました。生涯学習課主催のきさらづ市民カレッジと共に、受講者は77人でした。

四つ目は、本物の土器に触れる土器観察会です。縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代の本物の土器を活用しています。2回実施し、合計27人の参加がありました。

五つ目は、博物館本館エントランスホールでの体験コーナーです。会期中に「弥生時代の服(貫頭衣)を着てみよう!」と題し、当館にて簡易的に作製した貫頭衣を試着し写真撮影できるコーナーを設けております。家族連れなどにご利用いただいております。

次に、教育普及事業につきまして、ご説明申し上げます。

学校等との連携に関しましては、博物館実習を8月後半の6日間で実施いたしました。3人の学生を受け入れ、実習課題として勾玉作り教室の運営、展示を楽しむ仕掛け作りとしてクイズ形式の博物館本館ガイドマップの作製に取り組んでいただきました。

講師派遣・出前授業におきましては、市内の公民館及び学校からの依頼を受けて実施いたしました。公民館4館にて幕末の木更津、金鈴塚古墳、浮世絵についての講座を行い、合計70の方に受講いただきました。また7月には高等学校の授業の一環として博物館や学芸員について講演と常設展示の解説を行い、21人の生徒に受講いただきました。

学校等の見学・体験学習受入におきましては、16の団体等、計704人の見学を受け入れ、展示解説等を行いました。このうち、小学3年生については、市内の4校、計273人の児童に、旧安西家住宅にて昔のくらし体験学習としてカマド・石臼・囲炉裏・行灯の体験を、ガイドボランティアの協力の下、提供しております。小学6年生については、市内の2校、計124人の児童に歴史の展示解説を行いました。

続きまして、主催事業等は、きさらづ歳時記と題し、端午の節句、七夕、十五夜を実施いたしました。これは旧安西家住宅にて佇まいを活かした鯉のぼり・五月人形・七夕飾り・ススキ等を展示して年中行事を実施することで、来館者が季節を感じながら伝統文化に思いを寄せる機会とし、継承を促すことを目的としております。期間中は1,040の方に旧安西家住宅にご来館いただきました。

夏休み体験講座におきましては、博物館実習の課題も兼ねて、8月に勾玉作り教室を開催し、12人の児童にご参加いただきました。

同時開催として清和短期大学生の計画による小学低学年と幼児を対象に勾玉風アクセサリーづくりコーナーを設けたところ、34人の子とその親が博物館に集まりました。直前に市公式LINEを発信したこともあり、若い世代の家族連れの参加がありました。今後若い世代の参加のあり方を考えていくきっかけになりました。

古文書講座におきましては、8~11月に開催し、千葉市立郷土博物館市史研究員の大関真由美氏に講師を務めていただきました。館蔵史料等を用いて、入門・初級編各3回、計6回を開催し、実人数で入門編26人・初級編27人・計53の方にご参加いただきました。

資料貸出等につきましては、特別利用として博物館資料の熟覧等、20件の利用がございました。また国立歴史民俗博物館等の5団体に千葉県金鈴塚古墳出土品等の資料貸出を行っております。なお、資料借用といたしましては、現在開催中の特別展にて、千葉県・君津市・袖ヶ浦市・市原市の各教育委員会、本市の文化課から考古資料を借用しております。

きさらづ文化財ガイドボランティアの会につきましては、旧安西家住宅にて来館者向けのガイドの実施及び小学3年生向けの昔のくらし体験学習への協力を業務委託しており、現在、26人が活動しております。令和7年度はガイドボランティア養成講座を計2回開催し、2人の方にご参加いただき、両名ともガイドボランティアに加わっております。

オンライン朝日のオンライン校外学習ですが、12月3日に予定しております。こちらは、まなび支援センターを利用している小中学生が、オンラインで博物館を見学するという内容で、初めての試みになります。

立野議長： それでは、事務局から説明がありましたけれども、ご意見ご質問等がございましたらお願いします。

高崎委員： 夏の企画展「木更津高等女学生が描いた戦争と平和」は、さきほどアンケートにも

ありましたが、毎年見たい企画展です。質問は、観覧者が1,600人あったとのことです、高校生はどのくらい来たかわかりますか。

事務局(依田)： 高校生の入場数はわかりません。木更津東高校へ企画展の案内は先にさせていただいていましたが、先輩の絵ですので、多くの方がいらっしゃいました。

高崎委員： 高校の教員をしていたときに、博物館に行ってレポートを出すよう、夏休みの課題に出しました。多くの高校生に来てほしくて出しました。郷土研究同好会など部があれば一番いいのだけれど、今あまりないですよね。歴史科社会科の教員のグループに直接あたって、取り上げてもらえるよう話をしていくとよいと思います。

事務局(依田)： 今年度1校ありました。

高崎委員： あの年頃の女学生が描いた絵で、同世代ですから来館した高校生は何か感じますよね。高校生の時に博物館に来てもらっておけば、先々親になったときに、子どもを連れてもう一度来てもらえるようになります。

立野議長： 中学生、高校生の来館者数の増加は、これまで取り上げられている課題の一つです。高校では教員の歴史部会がありますから、連携するといいと思います。

根岸委員： 私は、旧安西家住宅のガイドボランティアをしている高校の教員です。小学3年生の昔の暮らし体験学習では、6・7人で担当者が分担していますが、私は囲炉裏を担当して子どもに教えています。囲炉裏にある自在鉤や五徳のことを今の子どもに言ってもわかつてもらえません。火は熱いに始まり、熱いのに耐えられる囲炉裏はどういった素材で作られているのか、という話に発展をさせ、何時頃まで使われていたかと話しているうちに、子どもの目がだんだんと輝いてくるのです。博物館の内容を授業前に話した時、どうせ行つてもわからないと高校生が話していました。中学校、高校、大学で教えている先生方が、共通的に地域の博物館の持っている役割、魅力、博物館に行けばこういうことがわかるよという宣伝を今までしていなかったのではないか。市、県全体が宣伝してもいいのではないか。派手に宣伝してもらい、興味本位でいいので、ここに足を運んでもらい、ああよかったですと生徒が一人でも二人でも増えていくとよい。一回来てみたら、もう一回来てみたくなるよというような宣伝をしていいのではないかと思うのです。市内外のみなさんとコミュニケーションやコンタクトをとれるよう、市、博物館、ボランティアが共通項を持って発信できればと常々思っています。

立野議長： ありがとうございました。高校の社会科の教員のお立場から、大変貴重な意見をいただきましたが、事務局からは何かありますか。

事務局(松本)： どのようにわかりやすく伝えていくのかということを、追究していかなくてはならないと思います。

立野議長： なかなか博物館職員は、奥ゆかしい人が多いので、なかなか大げさに言うことが不得意な人が多いのですが、考えていかなければいけないと思います。

中西委員： 私のゼミで、先ほど話がありました勾玉づくりの講座をさせていただきました。事前に、企画展「木更津高等女学生の描いた戦争と平和」を見学し、その後家族と来た学生がいました。ゼミの中で聞いてみると、皆さん木更津市出身だと、小学生の時に来ています。そうすると、みんなが口をそろえて「もう見た。」といいます。見たことがあるから知っていると言うのですが、大きくなつてから見ることの意義とか、いろいろなことを知つてから、博物館に来てもう一回見るということを、私は学生にどう勧めたらいいのか、みなさんから博物館の展示を繰り返し見て新たな発見を楽しむことを、私自身もご教示願えたらと思います。

立野議長： 今のご発言からいかがでしょう。何かござりますか。

事務局(松本)： そうですね。3年生の体験学習で来た子さんたちが、大きくなつて、また来てくださつてということだと思いますが、大人になってからもう一度来ると、また違つた見方ができるよということが伝わると、心に残るお子さんもいるかもしれません。体験中にお話ししていくようにしたいと思います。

立野議長： 今の発言は、常設展の話ですね。

中西委員： そうです。

立野議長： 他の博物館では、小学校の頃に時に見に来て、その後博物館実習に来たという例もあります。小学校、中学校、高校、大学で、児童・生徒・学生としての見方が変わるので、博物館と学校で、連携して指導ができるようになればいいなと思います。ほかにいかがでしょうか。

伊東委員： 小学3年生2学級ほどの規模でしたら、遠足がてら見学することができますが、前回の会議で、博物館に市内小学校の全校が来ているわけではなく、学校の規模によっては行けないところがあると伺いました。学校では「きっかけづくり」ができたらいいなと思っています。子どもにいろいろな体験の機会を与える、この博物館だけでなく、いろいろな体験をさせることによって子供たちが興味を持つものが出来てくるというきっかけづくりを学校現場でやっていふことは間違いないです。宣伝の話も出ていましたが、博物館も努力されてい

て、企画展があれば都度チラシが回ってきますし、それをすべての保護者にお配りしているところですけれども、はじめの体験にしろ、広告を目にしたにしろ、その中で興味を持って行ってみようかなという人はごく一部ですよね。それをどうやって広げていくか、テーマパークは、どれだけリピーターを増やしていくかということだそうです。一度興味を持って来ていただいた人に、また来たいと思ってもらえるようなものをどれだけ提示し続けられるかということが大事だと聞いたことがあって、そうすると、常設展だけではなく、次々と新しい企画を提示していくことも必要だと思うし、PR方法も YouTube にヒットするようなキーワードを並べると、目にする人も増え、行ってみようかなという子どもが増えていくのではないかなと思います。なにはともあれ、学校としては、子どもたちに機会を与える、一度足を運んでみて興味を持ってまた行きたいなというところを繰り返しやっているところで、また、楽しみな展示をお願いしたいと思います。

事務局(松本)： 最近は、LINE や X を使って発信させていただいたりしています。お子さんのイベントは、LINE を出したら急に参加者が増え、対象に合った発信があると思いました。最近は校長会で説明をさせていただき、そのあと、各学校に保護者向けに配信をしていただきました。タイミングや、発信の内容、どのツールを使うのか等、最近は旧安西家住宅の次の行事のお知らせをする、今はひな祭りのお知らせをし始めたところですが、来館時、次の行事がわかるようにしています。次はこれがあります、というような仕掛けづくりをさせていただいております。

中西委員： 勾玉アクセサリー作りのイベントは、午後 1 時から 3 時の 2 時間のイベントでしたが、前日の受付数は 8 人でした。学生には、たくさん来てくれるかもしれないで、たくさん用意をしようと 70 個ほど作りました。前日市公式 LINE から発信していただき、結果的に 34 人が来て待つ人の列が出て、番号札を渡し、その間に展示を見ていただきました。幼児連れの親子が博物館を見てただくきっかけになったかなと思います。市の LINE のパワーをすごく感じました。

立野議長： 他市の博物館でも、広報で募集した段階では、あまり申し込みがなかったけれども、LINE を出したら、あっという間に申し込みがありまして、根本的にかつてと広報の仕方が変わったことを実感しました。

立野議長： ほかにご意見がないようでしたら、続いて、議案2 の「令和7年度特別展「YAYOI の木更津」について事務局に説明を求めます。

事務局(松本)： それではまず、現在開催中の令和7年度特別展「YAYOI の木更津」をご覧いただきます。担当いたしました寺原係長が説明をいたします。

立野議長： それでは、特別展を見学しましょう。

(第4・5展示室へ行き、寺原係長が説明し、見学後集会室へ戻る。)

立野議長： みなさん、いかがでしたでしょうか。私が勤務している他市では、弥生時代の遺跡が全く出ていませんので、これだけたっぷりと久しぶりに見せていただき、大変勉強になりました。貴重なものも多数展示されていました。ご意見・感想がありましたら、お願ひします。

山田委員： 綺麗に陳列されていると思います。平台の上にフラットに展示されていますが、サイコロや斜台等の演示具はあるのですか。

事務局(寺原)： はい、あります。

山田委員： きれいに並べてあって文句の付けようがないくらいなのですが、抑揚をつけてあつた方が見やすいかなと思います。土器は似たようなものなので、台を置いたり、強調したりするといいと思います。鹿島台遺跡の再葬墓の土器3点は、大きく見映えのするものなので、その土器に他の土器を寄せてしまうと、大きな土器が引き立たないかなと思います。一般の来館者には土器のところで何を見たらいいのかがわからないので、強調して見せたいものと、そうではない引きで見せたいもの、全体でみるもの分けた方がいいかなと思います。

弥生時代の農具と近現代の民具を並べて比較する場合は、展示物の下に敷くものを変えて、弥生時代のものと民俗資料が違うことを明確に示すといいと思います。

パネルは、全体によくできていますが、もう少し色を変えるといいと思います。それと、全体に色が薄いかなと思います。コーナーパネルは全部同じフォーマットにして、全体にもっと強い色がいいと思います。コーナーパネルは、これだけ見ればいいというパネルなので、補助パネル(説明パネル)と分けて、パッと目が行くように強い背景でもいいと思います。パネル全てを同じグラデーションにせずに、見ないといけないパネル(コーナーパネル)と補助的に見ればいいパネル(補助パネル)という違いが分かるようにした方がいいかなと思います。今回の展示は4つのコンセプトでできているので、コーナーパネル4枚を見れば展示内容が基本的にはわかり、それよりもさらに詳しく知りたい人は補助パネルを見てもらうという見せ方の工夫があるといいと思います。コーナーパネルは少し見づらいかもしれません。文字数はどのくらいですか。

事務局(寺原)： 文字数は、300字くらいです。

山田委員： 300字は理想的ですが、文字が小さいかもしれません。コーナーパネルの文字はもっと大きくて太字でもいいと思います。補助パネルは、200字以内がいいです。子ども用のパネルを作つてみると、子どもにも親しめるかと思います。常設展でも子

どもにもわかるようなパネルとその上の世代用のパネルというように各客層に合わせたパネルがあるといいと思います。

立野議長：展示の方法について、大変貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

伊東委員：今見た感想になりますが、チラシも学校に回ってきて、ちょうど協議会があるので、楽しみにしていました。展示品は、大変貴重なものばかりで感心してみておりました。私は、今回のような昔の物を見た時は、その当時の人たちがこれらを使ってどういう生活をしていたのかなということが感じられる展示であると嬉しいなと思っています。実際どう使われていたか、どういう工夫がされていたか、説明があると嬉しいです。

立野議長：ありがとうございました。ほかにございますか。

根岸委員：私は、展示物は非常によいと思います。私が思うところとして、この土器を作っている土は、何の土か、石斧を作っている石は何岩なのか、川原の石を磨くとこうなるとか、山に入ってこの木を切って加工すれば、こういうものがつくれる等のちょっとした説明があれば、それを読んだ小学生、中学生は、素材、材料というものに対しての興味につながっていくのではないかと思います。

立野議長：ありがとうございます。ほかにないようでしたら、事務局に進行役をお返しします。

事務局(松本)：本日皆様には、ご多用のところご出席をいただきまして誠にありがとうございます。これをもちまして、令和7年度木更津市郷土博物館金のすず協議会第2回定例会を閉会いたします。